



九条の会. ひがしなだ ニュース

第46号

2013年11月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail youchi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp

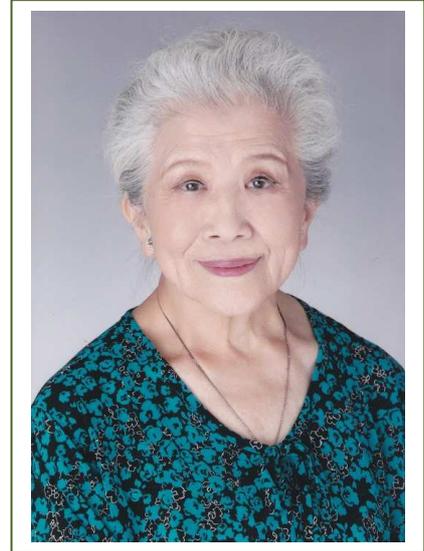
ホッカホカの真っ白なお握り……思わずツバが一NHKの朝ドラ「ごちそうさん」を見ながら、フーツと思い出した。あの戦中戦後を。”銀シャリ“というお握りは、芋の切れ端や一粒の豆を貪り食う私たちの憧れ。たゞたゞ餓しい毎日が続いた。

軍隊の上層部や闇屋稼業以外の殆どは、飢えにあえぎながら国のため、勝つためと懸命に働いた。国が支給するわずかな食料に、誇り高く耐えられた司法官は飢え死にされた。南方で苦戦を強いられた兵士たちは、救援を待つ一刻一刻に死んだ仲間肉を喰らいつつ、何万と餓死されたと聞く。

この飢餓も”戦争“の産物、加えて”原発“が世界中の生物を汚染しつつあるのだ。

人間は食わねばならない。ウマイッ！という人の笑顔は、幸せそのものではないか。この笑顔のためにも「九条守れ、原発やめろ」なのである。それは、人類、人間の、生物の存続に、即ち私たちすべてに関わっているからである。

(九条の会. ひがしなだ 呼びかけ人 河東けい)

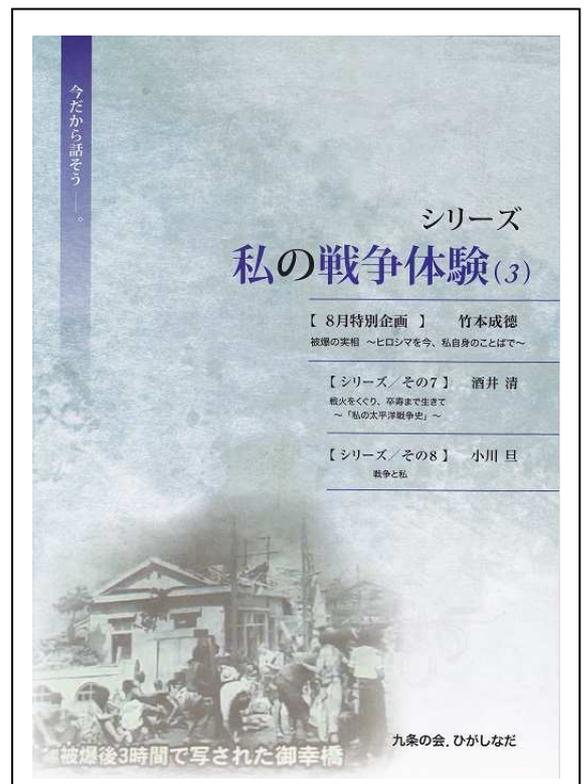


「シリーズ 私の戦争体験(3)」を発行しました

この度、今年の8月に特別企画として取り組んだ元コープこうべ理事長の竹本成徳さんの「被爆の実相 ヒロシマを今、私自身のことばで」という講演会と、昨年実施した酒井清さん、小川旦さんお二人の戦争体験を語る集いをまとめた「シリーズ私の戦争体験(3)」を発行しました。

竹本氏さんは、自らの経験した地獄絵図のような原爆体験を生々しく訴えられると共に、戦争という愚行を、ましてや核戦争を、人類は決して繰り返してはならないと力強く訴えられました。語り部として体験を話された酒井清さんと小川旦さんは、それぞれ、勤労働員や戦中・戦後の食糧難、昼・夜を分たぬ空襲、集団疎開などの、つらい体験を語られました。

現在、秘密保護法や日本安保会議の設立など、戦争のできる日本を目指す動きが強まる中で、このパンフの普及と販売をそれへの反撃として、断固として取り組みましょう。



パンフ隊奮闘記①

3日憲法集会、4日収穫祭などで計 50 冊以上 大集会は見逃さず、小さな付き合いキメ細かく

8月特別企画として取り組んだ竹本成徳さん（元コープこうべ理事長）の講演「被爆の実相～ヒロシマを今、私自身のことばで～」を軸に、この間の戦争体験を語る会の語り部2人の手記を組み合わせた「シリーズ 私の戦争体験（3）」が、11月1日（金）の夕刻、印刷業者から配達されてきました。これを持って、さっそく、その夜の会合から普及を開始。

大きな集まりでは、3日の憲法集会と4日の収穫祭およびNHK問題を考える会の集会在、ハイライトとなりました。

「安倍政権の壊憲を許すな！」を掲げた神戸憲法集会（新長田勤労市民センター）では、若手弁護士による寸劇「憲法ができるまで」が、素人放れした熱演で好評。続いて、和田進神戸大名誉教授の講演「アジアにおける憲法9条」も、国民の意思との“ねじれ”、アメリカにさえ懸念されるほどの安倍政権の右傾ぶりをはじめ、各種のジレンマを浮き彫りにし、一致する課題での共闘の積み重ねと発展、今後の運動への展望に確信を深めました。

会場は、立ち見も出るなど、超満員の盛況でした。

これを反映して、九条の会・ひがしなだのパンフも（1）～（3）の合計で30冊近い売れ行き。幸先のよい出足となりました。

ところが、翌4日（月、休）の収穫祭（西神高塚公園）の方は、午後1時すぎからの、にわか雨とは思えないほどの本格的な雨にたたられて、1ヶタ止まり。パンフは傷むし、さんざんな目に合う中で、元町のNHK問題を考える会の集いに出た中村さんは、屋内集会の強みを生かして14冊の成果。

こうしたアクシデントに遭遇しながらも、各種集会、学習会などの日程を一覧表に書き出し、何人かでスケジュールを調整しながら、訴えて回っています。

この間の教訓は、大きな集会は機会を逃さず、小さな学習会・趣味のサークルなども、つながりを活かしてキメ細かく、といったところでしょうか。小さな集まりでも、意外な成果につながっています。皆さん、ともに頑張りましょう。（田所）

3日の憲法集会、4日のNHK問題を考える会の集会在、10日のワーカーズ上映会に参加して、シリーズ（3）を合計36冊販売できました。その間の楽しい経験。ご婦人に声をかけると、「九条の会・ひがしなだの『私の戦争体験』やねー、私たちの所まで鳴り響いてますよ」と1冊購入。シリーズ（1）、（2）、（3）をセットで買っていただいた男性は、「なかなか素晴らしいやないけ。そんじょそらの本を買うても1,500円とか1,600円とかする。三冊セットで1,300円で、中身が濃いから素晴らしいやないけ」とおっしゃいました。ワーカーズ上映会では、主催者の兵庫県高齢者生活協同組合理事長の藤田由紀雄さんと親しくお話し、2冊お買い上げいただきました。（中村）



収穫祭では得難い体験も

史跡・戦績ウォーキング(御影・灘区編)報告

秋晴れの土曜日(11月9日)、25名の参加で、御影・灘区周辺を歩きました。

阪神御影駅南にある御影標柱を13時30分過ぎにスタート。澤ノ井、旧御影師範学校跡では御影クラスセから現御影中学校を含む敷地の広大さに驚きの声が、また御影中学校内の園庭にある御影師範学校跡地の石碑、御影師範学校英語の教師をしていた八木重吉の詩碑を見学。今回明らかになった御影警察署跡では、治安維持法で逮捕され、御影警察で虐殺された倉岡愛穂氏の説明等を聞く。

真言宗広隆寺では焼夷弾で焼け残り、煤けた釈迦像の台座や、東明八幡神社にある石柱には爆弾



澤ノ井の前で

の破片の傷跡に、68年前の空襲の激しさが想像できます。広隆寺さんではタオルをいただきました。戦後、御影公会堂で結婚式を挙げるのに、並んで抽選で予約したという参加者Yさんの話に、当時の憧れの結婚式場だったことを確認。それと建物の屋上にある螺旋階段の塔が、船のマストのようで、港町神戸を意識したのかな…等言いながら公会堂の前を歩き、「火垂の墓」文学碑から処女塚へ、処女塚伝説を聞き、古代に思いを馳せる。コース最終は野坂昭如が通った成徳小学校。正門を入ったロビー天井には戦災に免れたシャンデリア(阪神淡路大震災でひとつは破損)が残され



広隆寺の焼けた釈迦像の前で

ています。3時間近いウォーキングでしたが、いつもはバスや車で通り過ぎていたところに史跡、戦争跡があり改めて町の歴史を再認識したウォーキングだったように思います。

今回初めて参加されたかたも多く、御影中学校、成徳小学校には個人では入れないからと、楽しみにされた方もいました。

JR六甲道で解散後は近くの居酒屋で交流、10名の方が参加。邪馬台国が九州でなく近畿にあったという新説や、大和朝廷と出雲朝廷の関連など、古代史から平和の話へと続き、和気藹々とした雰囲気での会を締めくくりました。(田中)



処女塚の前方台の上で



12月1日(日)、「私の戦争体験(その9)」を開催

添付のチラシに示すように、12月1日(日)、14:00開演で、東灘区民センター第1会議室(8階)において、「私の戦争体験(その9)」を開催します。語り部の堀之内八郎さんが、「戦争は悪魔だ ～一生に一度の青春も奪い去る～」という演題で語ります。堀之内さんは、昭和3年生まれの85歳で下記に示すような壮絶な体験をお持ちです。

終戦の年の昭和20年6月、数百機のB29が東京を空襲し、そのうちの1機が横須賀の堀之内さんの基地のとなりの工場に爆弾を1発落として消えた。その工場には、秋田を中心とした女学生が120名働いていた。翌日、遺体収容命令が出され、工場に向かうと顔に白い布をかぶせられた120体の女学生の遺体が並べられていた。堀之内さんは、左から82番目の遺体を担ぎ、遺体を焼却するため、山の上まで歩いた。遺体を担ぐと、血と体液と悪臭が雪崩落ちてきて、顎がなく、目の玉が飛び出しそうな遺体だったとのこと。山頂で遺体を並べ、ガソリンをかけて火をつける直前に、女子学生の「ワダミドリ」と書かれた名札を引きちぎってポケットに入れた。終戦後、横須賀のその工場で慰霊祭があり、名簿に彼女の名前が載っており、問い合わせるとご家族の方が4名参加されるとのこと。事情を説明してご家族に合わせていただき名札を差し出すと、父親は見るなり震えだし、母親は「ミドリ」と叫びながら狂ったように走り回られた。あの深い淵に落とされたご家族の「悲しみ」、「辛さ」は、今もはっきり脳裏に残っている。戦争で何百万人の人間がいろんな形で死んでいる。戦争は悲惨だ。二度とやるものではない。(中村)



9条世界会議へブースを出店

10月13日(日)、「日本国憲法9条を世界から考えてみませんか」をテーマに、9条国際会議が関西大学千里山キャンパス第一学舎で行われ、約500人の参加で成功裡に終わりました。

10月14日(月、休)は、「9条世界会議2013」が大阪府中央体育館で、約5000人の参加で開催され、九条の会・ひがしなだもブースを出して参加しました。

私は会場に入らず、強い日差しの中、ブースでパンフ販売に徹し、「私の戦争体験(1)」を10部、(2)を9部販売することができました。

参加者の感想を聞くと、印象に残ったのは、フランスから参加されたローラン・ベイユ弁護士(95歳)ーレジスタンスとしてナチスドイツとたたかった一の話とその体力。95歳でフランスから飛行機で来て、話をする精神力とその肉体に驚いていました。もう一人はアメリカから参加されたアン・ライトさんー元米国陸軍大佐(女性)一の話だったようです。ブースでは、神戸で平和マップを作る会の女性、西神ニュータウン9条の会の人たちや兵庫県弁護士9条の会の皆さんとの友好を深めることができました。

(合田和義)



ゴスペル合唱団・神戸マス・クアアの指導者で、被災地救援や平和運動などに積極的に取り組んでこられた東神戸教会の川上牧師が来年3月、群馬県の高崎教会に転任されます。川上さんからのひとこと。

人間の本性とのたたかい

私が平和憲法の存続を願うのは、私が心から平和を願う「虫も殺さないような人間」だからではありません。時と場合によっては敵を打ち倒さんとする「野蛮な本性を抱えた人間」だからであり、なおかつ「皆がその本性のまま生きていったのでは大変なことになると感じている」、そんな人間だからこそ平和憲法の大切さを思うのです。

20世紀は2度の世界大戦で多くの人の命が犠牲になり、みんなが「戦争はもうコリゴリ」と思っただけでした。しかし21世紀を迎えた今なお、この地上から戦火の止む日は訪れず、戦争の準備をしたがる人間が現れてきます。戦争は愚かなことと知りつつ、それを繰り返してしまう。それは人間が心の奥底で、実は人と争うことを願っているからかも知れない……。そんな風にも思っています。

自分の中にある暴力性を見つめ、それを認めることは愉快的なことではありません。しかし、その愉快ではない作業を通してこそ、邪悪な部分越えようとする力（文化）も芽生えるのではないのでしょうか。「人は争いを好む」— そんな本性が自分にもあることを、まず認める。その上で自らのその本性を乗り越えようとする。それが「平和を！」というスローガンを、何万回唱えることよりも具体的な道ではないか、と思っています。

（日本キリスト教団東神戸教会牧師 川上 盾）

“平和マップ”を歩こう 被害だけでなく、“加害”の側面も

「灘区平和マップを歩こう」という企画が10月26日（土）にあり、米倉さん、合田さんと3人で行ってきました。元小学校教員の人たちが中心となって、子供たちへの平和教育の一環として企画したもので、元教員の小城智子さんが作成した平和マップのコースを、実際に歩いてみました。参加したのは、子供連れの若い母親など、30人近い老若男女。コースはJR灘駅～灘タカバシ～王子神社～神戸文学館～王子競技場～神戸高校～摩耶ケーブル下～護国神社。最後に、神戸学生青年センターで開催中の平和マップ展を、見せていただきました。

印象的だったのは、王子神社では、国民を戦争へと駆り立てた「紀元二千六百年の碑」、摩耶ケーブル下では、この建設に大勢の朝鮮人労働者が低賃金・無権利状態で酷使されたことなど、戦争被害の側面だけではない、多角的な視点からの解説が行われたことです。

また、護国神社では、「大戦殉難北方異民族慰霊碑」も見て、オロッコ人など寒冷地の現地人を利用して日本軍に協力させ、戦後の補償もなく見捨てていった、という非情な歴史も学びました。さらには、こうしたツアーが、灘区役所まちづくり課の「手づくり活動“事業”」の助成を得て、行われていること。「東灘区でもやっているはず」と聞いて、さっそく区役所を訪ねますと、「コミコミ助成」の名で行っており、来年度分は、3月1日から受付が始まるとのこと。これを見逃す手はない、と改めて痛感した次第です。「灘区平和マップを歩こう」の2回目（南部コース）は11月30日（土）午後1時、同じくJR灘駅南側集合で行われます。

問い合わせは電話 078-882-2196 築山さんまで。

（田所）

9条の会訪問記（その22） 北区9条の会連絡会 1年かけて「つどい」を準備 出演者も“一流どころ”揃えて

神戸市北区には現在、北神戸「九条の会」など、6つの地域9条の会があります。日常的には、それぞれ独自の活動を進めています。たとえば、「すずらんだい九条の会」は、神戸電鉄「鈴蘭台」駅前で、署名・宣伝活動に取り組み、ニュースの発行も発足8年で56号を発行するなど、活発です。「星和台・鳴子九条の会」は、映画観賞会や学習会などで特徴を発揮し、今秋は10月14日（月、休）に「安全なくらし～パネルディカッション」を成功させたばかりです。「西鈴蘭台9条の会」は、憲法情勢に“会”の紹介を組み合わせた独自の宣伝パンフを作成して大量に普及し、今秋も大きな反響を巻き起こしました。

こうした各9条の会が年に1回、力を合わせて取り組むのが、「北区9条のつどい」。これが北区全体の大きな結節点となっています。各会にはそれぞれ特徴があり、ご多分にもれず、活動状況にも濃淡があるのですが、日ごろはゆったりしている会も、「年に1回は・・・」ということで、力を入れて取り組むのです。2006年に始まった、この「つどい」は、これら6つの会からの世話人で構成する連絡会を中心に運営しており、毎月1回の会合で、1年かけて準備しています。10月下旬以降は、週1回ペースへと、ピッチが上がっています。

これまでに伊藤真、伊勢崎賢治、湯浅誠、安齋育郎といった、その時々的重要テーマを象徴するような有力講師を招いて、毎回300～400人、多い時には約500席の「すずらんホール」を超満員にするなど、成功させてきました。

工夫しているのは、チラシやポスターなどによる集客方法、そして参加費の設定など。特にチラシ、ポスターは北区在住のプロのデザイナー夫妻が、ボランティアで作成し、綺麗で目を引く上品なデザインで若い人や新しい人たちの心にも届くよう、工夫されています。チラシはカラーの表裏グラビア印刷で、1枚2円未満という格安のルートを開拓して、毎回2万～3万枚を作成し、各戸配布にも熱心。参加協力券は一貫して、ワンコインの500円（高校生以下は無料）に設定し、当日は参加できない人にこそ協力を呼び掛けて、開催日までには採算ラインを確保し、加えて会場カンパも募って、各会に還元するなど、財政面での配慮も行きとどいています。

今年の「第8回北区9条のつどい」は、九州大学准教授の直野章子さん（西宮市出身）を講師に招き、11月30日（土）14：00～すずらんホールで開催します。講演テーマは「憲法からしめだされる！？～棄民を生み出す受忍論」。

ミニコンサートには、宝塚歌劇団のファゴット奏者・渡邊悦朗、ギタリストで大阪音楽大学講師の増井一友の両氏が友情出演するなど、出演者も“一流どころ”を揃えています。



「年1回は・・・」と、準備にも熱がこもって

（田所明治）

11月24日(日)に中央区で戦争遺跡巡り 「戦時下を生きた外国人」をテーマに

『兵庫の平和史跡ガイド』の出版を記念して、「戦時下を生きた外国人」をテーマに、第80回戦争遺跡ウォーキングが行われます。

11月24日(日)午前10時、JR三宮駅中央改札前に集合し、生田神社の戦災クスノキを皮切りに、神戸ムスリムモスクや聖ミカエル国際学校、宣教師邸宅跡、神戸華僑博物館など、多彩なコースを巡ります。

昼食は南京町で中華料理。中突堤からの神戸港クルーズでは、三菱重工、川崎重工のドッグでの潜水艦(海上自衛隊)の修理を、海上から見ることもできます。

いずれも『兵庫の平和史跡ガイド』の著者が案内し、解散は午後4時ごろの予定。

参加費は3000円、ほかに乗船代、入館料など。

主催は、社団法人大阪宣伝センター機関紙会館で、参加申し込みは電話06-6465-1201 FAX06-6465-1205、となっています。(田所)

これからの催し物

★★★☆☆ 11月5日(火)～17日(日)(12:00～19:00、最終日17:00)

神戸ビエンナーレ2013「まちなかアートギャラリー」

会場：プラネットEarth(元町高架下モトコートウン2)

テーマ：裂—saku—つながるところのわたしを返せ ～言葉と身体が さく・咲く・サク～

展示：「峠三吉『原爆詩集』の”序詞”を世界のことばで」 23カ国語資料提供：玉井洋子

朗読・パフォーマンス：11月9日(土)14:00～16:00

出演：玉井洋子、高谷和幸、安西佐有理ら多数

参加費：無料

問い合わせ先：携帯090・3279・9315宮崎さん

★★★☆☆ 11月17日(日)15:30～17:00

元自民党幹事長・野中広務が語る この国の政治と平和の危機をどうみるか

主催：兵庫県保険医協会

会場：神戸朝日ホール

講師：元自民党幹事長 野中広務氏

定員：500人(事前申し込み必要)

参加費：無料

問い合わせ先：電話078・393・1801、FAX078・393・1802

★★★☆☆ 12月7日(土)13:30～

兵庫県弁護士会 憲法市民集会 「徹底討論!」「憲法改正」

場所：兵庫県民会館けんみんホール(元町)

パネリスト：やまだ賢司(自民党衆議院議員)

伊藤 真(弁護士、日弁連憲法委員会副委員長)

※入場無料、予約不要参加費無料